

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：34526

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03008

研究課題名（和文）「読むこと・書くこと」の主体的協働的な学びにおける初等英語カリキュラム開発と評価

研究課題名（英文）The Study of Reading and Writing for Elementary English Curriculum Development and Evaluation on Cultivating an Attitude of Proactive Learning and Cooperative Learning

研究代表者

高橋 美由紀（Takahashi, Miyuki）

関西国際大学・客員教授・客員教授

研究者番号：30301617

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：小学校外国語（英語）教育の教科化により、教科として英語コミュニケーション能力を育成するためのカリキュラム及び、中学校英語教育へ円滑に繋げるために、小学校段階に効果的な「文字導入」や、学修者の主体的・協働的な学びによる「読むこと」「書くこと」を含めた4技能を統合的、総合的に指導する方法について国内外の事例研究を基にして検討し、低学年から学年別の段階的な指導法及び、教材、カリキュラム、評価規準等について考察し、教育現場に提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化に対応した「国際共通語である英語力の向上」としての英語教育改革においては、その基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成は重要な課題であると示された。

本研究は、小中高一貫の指標形式の目標を設定した上で学修者が能動的な学びができる「読むこと」「書くこと」を含めた4技能を統合的、総合的に指導する小学校外国語（英語）教育の効果的なカリキュラムの開発、及び、学修者の評価について、教育現場で容易に活用できる評価プログラムを構築することであり、この課題の一つの解決方法として大いに貢献できる研究であった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we researched a curriculum to develop English communication skills as a subject for English education in elementary school. In addition, in order to smoothly connect to English education from elementary school to junior high school, we examined the ways to effectively introduce and teach English characters from the base of communication at the elementary school level.

We also examined methods of teaching the five skill areas, particular focus on reading and writing, for an integrated manner, and comprehensive teaching methods through effective "English character introduction" at the elementary school level and through cultivating an attitude of proactive learning and cooperative learning by students, based on case studies from Japan and foreign countries. Based on these studies, we discussed and proposed to the field of education a step-by-step teaching method, teaching materials, curriculum, and evaluation criteria for each grade level, starting from the lower grades.

研究分野：外国語教育（小学校外国語教育）

キーワード：主体的・協働的な学び 教科化 文字指導 読むこと 書くこと 総合的・系統的な指導 コミュニケーション 評価プログラム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2020年度から小学校での英語は、中学年から「聞く」「話す」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」及び「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱う教科としての英語が導入される。また、次期学習指導要領の改訂においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現したりすることを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。そして、国際的な基準である CEFR などを参考に、外国語学習の特性を踏まえて知識・技能と思考力・判断力・表現力を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標 (CAN-DO 形式の目標) を設定し、外国語の学習等のための「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やりとり: interaction)」、「話すこと(発表: production)」、「書くこと」の5つの領域において、単に、知識・技能だけが示されているのではなく、知識・技能を活用して思考したり表現したりする言語能力が示されている(文部科学省 2016)。また、Curtain & Dahlberg(2010)は、「読むこと」「書くこと」は、コミュニケーションの道具であると述べ、言語学習の総合的な標準ベースのアプローチでは、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動は別々に行われるのではなく、相互に関係しており、児童のコミュニケーションタスクの活動では4技能を統合的に扱うアプローチが多いこと、さらに、「第2言語としての言語学習では学習者はすでに母語の経験から文字の役割について十分に理解しており、むしろ音声言語のみを扱い、文字言語を扱わないことが不自然である(Curtain & Dahlberg 2016)」と言及している。

一方、高橋・柳(2012、2013、2014、2015、2016a)は、既に英語が「教科」として、小学校低学年から導入されている韓国・中国・フィンランド・ロシア等の授業観察や教科書分析、指導者へのインタビュー等の調査を実施し、「聴く活動」「話す活動」「読む活動」「書く活動」を総合的・統括的に指導している事例から日本の小学校の指導に示唆できる点を示した。また、高橋(2013)は、TOEFLの初等教育段階のテスト作成ワーキングメンバーとして参加し、英語の基礎能力テストでは、音声面の「聞くこと」だけでなく文字を「読むこと」も含めて実施することを検討し、その意義と効果が認識できた。さらに、小学校英語教育における「読むこと」「書くこと」の指導に関して、その導入時期及び指導方法について、Curtain & Dahlberg(2016)等の論考をもとにして再考を試み、「小学校英語教育における「読むこと」「書くこと」の指導:教材としてのstory(お話し)」として絵を用いて児童が「読むこと」「書くこと」の文脈を創り出し指導する方法を提示した(高橋・柳 2016b)。さらに、高橋(2016a)は、子ども達が楽しみながら文字の学習ができる『シールで絵じてん』の教材作成に携わり、音声の補助としての文字導入から、文字による語彙の認識等「読むこと」を重視した活動が低学年からでも可能であることを示した。

評価については、「小中高大の一貫した英語コミュニケーション能力の到達基準の策定とその検証」の研究において(科研課題番号 2024201101)、CEFR が採用した「CAN-DO リスト」形式に則り、新たに策定された日本人学習者の英語到達度指標「CEFR-J」を作成し、レベル・スキル別に解説し、『CEFR-J ガイドブック』として著した。高橋は、「Pre-A1 レベル」(小学校外国語活動)と「A1 レベル」(中学校入門期)を担当した。また、高橋・柳(2011)では、小学校で「外国語活動」ではなく、「英語教育」として導入されることを仮定して、「ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)」を基礎にした評価規準について「話すこと」「聞くこと」の技能に関する記述を全て取り出し、小学校の外国語活動で行われている活動に当てはめてその難易度を並べ替え、より精密な評価規準を提案している。本研究ではこれまでの研究をさらに発展させ、学修者の主体的な学びによる「読むこと」「書くこと」を含めた4技能を統合的、総合的に指導する初等中等教育を通じた系統的な英語教育としてのカリキュラム開発、及び、それに基づいた CAN-DO リストによる評価のプログラムを構築し、実証研究を行なった上で、教育実践の場に具体的に提示したい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校外国語(英語)教育の教科化により、教科として英語コミュニケーション能力を育成するためのカリキュラム及び、中学校外国語(英語)教育へ円滑につながるために、小学校段階に効果的な「文字導入」や、学修者の主体的・協働的な学びによる「読むこと」「書くこと」を含めた4技能5領域(聞くこと、話すこと(発表)、話すこと(やり取り)、読むこと、書くこと)を統合的、総合的に指導する方法について国内外の事例研究を基にして検討し、カリキュラムとして、低学年から学年別の段階的な指導法、指導に基づいた「CAN-DO リスト」による評価プログラムを構築し、教育実践の場に具体的に提示することであった。

これら、高橋・柳(2015、2016)の研究である「小学校段階に適した文字指導、「読むこと」「書くこと」などの指導について(科研費課題番号 26370725)」における絵本教材等で具体例を示唆した研究や、投野・高橋他の(2011)「CEFR-J を作成し小中高大の一貫した英語コミュニケーション能力の到達基準の策定とその検証を行った研究(科研課題番号 2024201101)」等をも

に発展させて、小中高一貫の指標形式の目標を設定した上で学修者が能動的な学びができる指導とその評価について、小学校英語教育の効果的なカリキュラムを開発及び、教育現場で容易に活用できる評価プログラムを構築することである。

3. 研究の方法

研究の方法として、第一に、教科としての小学校英語における学修者の主体的でかつ協働的な学び、及び、文字指導とその評価についての研究を行うための理論的な背景を把握するための文献研究を行う。具体的には、アクティブ・ラーニングを活用した小学生の特質を活かした英語教育についての文献や事例研究の論文にあたる。フィンランドやフランス、ロシア等で少人数による主体的でかつ協働的な学修を行なっている事例研究の文献、及び、韓国、中国等のアジア諸国で初等教育における英語教育の事例研究の文献にあたる（教育政策、教育事情、言語教育のカリキュラム、使用教材、指導法等）。児童の文字指導、さらに、文字を統合的に扱う指導についての先行研究として、イギリスやオーストラリアの母語教育、シンガポールの教育言語としての英語教育、韓国、中国等の外国語教育について文献研究、及び、テキストや絵本等の教材研究についても行なう。児童の言語能力における文字の導入や CEFR を応用した評価のあり方等についての文献研究を行う。

第二に、小学校外国語（英語）科の「教科化」「学修者の主体的な学び」の視点から、中学校外国語（英語）科の教育へ繋げるための小学校段階に効果的な「文字導入」や「読むこと」「書くこと」を小学校英語教育に導入し、「4 技能の学習を統合的に扱う指導」及び、教科としてどのような評価をしているのかを中心にして視察を行う。とりわけ、文字指導において、初等教育段階で児童生徒の主体性や協働学習を効果的に取り入れた指導法とその評価、及び、小・中の繋がりを意識して効果的な文字指導を行なうことを探るために、小学校5年生から中学校2年生迄を同じ学校（シコーラ）で英語専科が指導しているロシアや、第二言語教育を行っているマレーシア等の視察を行う。日本においては、文部科学省の補助教材『Hi, friends! Story Books』『Hi, friends! plus』の効果的な活用法の研究と文字指導を行っている小学校、及び中学校の英語教育の実態について調査する。また、母語教育、第二言語教育、外国語教育での文字指導を行っている諸外国の教材教具、教育内容、指導法、カリキュラム等の事例を詳細に収集し、日本の小学校に応用できる点を探る。なお、評価については、CEFR 等を基にした小学校外国語（英語）教育における「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標設定等の情報収集も行う。第三に、「学修者の主体的な学び」ができる文字指導「読むこと」「書くこと」の指導についての検討を行ない、さらに「教科」としての英語教育の導入を目的として、低学年から学年別の段階的な指導法、及び、教材、カリキュラム、評価規準等について考察し、カリキュラム開発を行なう。第四に、教育実践研究として、小学校で使用できる教材を試作し、「文字導入」や「読むこと」「書くこと」から「4 技能の学習を統合的に扱う指導」の方法と評価規準、評価方法等についてのプログラムを提案する。そして、教育現場において実証研究を行ないその効果について検証する。

4. 研究成果

平成 29 年公示の次期学習指導要領（文部科学省, 2018a）では、小学校における外国語教育の開始学年をこれまでの 5 年生から 3 年生に移し、5 年生からは外国語科として教科化することが示された。

新設された小学校外国語科では、「外国語の 4 技能 5 領域（聞くこと、話すこと（発表）、話すこと（やりとり）、読むこと、書くこと）について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。」「外国語の学習を通じて、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化などに気付いている。」の 2 項目が扱われる。

これまで「聞くこと」「話すこと」といった音声言語を扱っていた小学校外国語(英語)教育は、外国語の 4 技能 5 領域を扱うこととなったが、新しく導入される「読むこと」「書くこと」について、これまでの中学校外国語(英語)教育と同様の内容及び教授法が導入されるわけではない。時間数が週 2 時間程度と、中学校の時間数と異なっているばかりではなく、児童の発達段階も考慮する必要があるからである。小学校においてアルファベットが導入されるのは 3 年生である。学習指導要領中の、外国語活動の「英語」の目標において、「文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする」という「聞くこと」の一部として示されている。すなわち、音声 /ei/ を聞いた際に、文字の「A」ないしは「a」を選択できるような力が想定されている。外国語科の文字指導は、外国語活動においてアルファベットの読み方を視覚認知・識別できるような力が素地として育まれた状態であるということである。

学習指導要領においても、アルファベットの「読み方が発音できる」とことと語句や表現の「意味が分かるようにする」ことが目標に挙げられていることから、読むことができているかの評価は「発音（あるいは音読）する」「意味を理解する」という 2 つの観点で行われることになる。「書く」ことには (a) 文字をしるす、(b) 文に作る・著作する、という意味が含まれる。学習指導要領の記述には、「書く」と「書き写す」という 2 つの言葉が用いられている。「写す」とは、現物を別の用紙などに書き取ることであり、先に示した辞書的な意味のうち文字を記すことに該当する。具体的な教育活動場面においては、お手本を見ながら書くことが想定される。ただし、練習段階においてペンマンシップ等で行われるような、灰色で印刷された文字を上から書きなぞることは含められない。そして、書き写すではない「書く」ことが意味していることでは、

アルファベットを「活字体で書くことができる」であるため、辞書的な意味の文字を記すことである。「例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書く」ことで、辞書が示すところの「文に作ること」とも解釈できる。しかしながら、「例文を参考に(中略)書く」問題においては、例文及び必要な語や語句が語群で示されることが想定できる。小学校段階において、語彙を暗記することは求められておらず、児童にとって何も手がかりがない問題設定は現実的ではない。ここでの「書く」ことは、(たとえ文の内容は児童が言いたい内容にあたる語句を選びながら創造的に文を作成しているとはいえども)、先の「書き写す」ことで述べた「お手本を見ながら書く」に近い活動である。すなわち、先の「書き写す」よりも思考・判断を求められる活動ではある一方で、技能としては文字を記すことの範疇であるといえる。

以上のことを踏まえて、本研究成果では学習指導要領における「読むこと」「書くこと」を評価する際の具体的な観点と指導について論じた。また、「読むこと」「書くこと」の評価の枠組みを整理して、「読むこと」「書くこと」という技能は、上述のように理解することができ、また、指導要領で述べられている言語材料は、文字レベル、語や表現レベル(語、語句、表現)、文レベル(1文、まとまりのある文章)の3つに分類できる。ここまで述べてきた目標とされる技能と言語材料をまとめると、図1のように理解することができる。ただし書くことについては、一般的な作文をするような活動まで求められていない。

図1 「読むこと」「書くこと」の評価マトリクス

		文字	語や語句、表現	1文、まとまりのある文
書くこと	書く	文字を書く 【書くこと ア】 4線を使用	語、語句、表現、文を書く 【書くこと イ】【3つの柱(2)】(例文を参考に)(語順を意識)	
	書き写す	文字を書き写す	語や語句、表現を書き写す 【書くこと ア】(語順を意識)	文を書き写す *ワークシートの例は少ない
読むこと	理解する	文字を理解する(理論的に不可能)	語や語句、表現を読んで理解する 【読むこと イ】【3つの柱(2)】	文を読んで理解する
	発音する	文字を発音する 【読むこと ア】	語や語句を音読する	文を音読する

注 【 】は学習指導要領で目標として記載されている項目である。×のついたセルは、学習指導要領及び解説の両方において言及されていない項目を表している。網掛け部分は、We can!(文部科学省, 2018c)のダウンロードコンテンツであるワークシートに活動が用意されていることを表している。

図1中で【 】の記載があるセルが、学習指導要領(解説ではなく、学習指導要領本文)の目標として挙げられている観点である。また、×のついていないセルは、学習指導要領の解説部分などで記述がある観点である。すなわち、6年生の修了段階には、文字に関する と の観点、語や語句、表現、それらと例文を活用して書く文(ないしは文章)に関する の観点の力が身に付いていることが求められており、必然的に評価が伴う。また、 の観点についても、適宜評価が必要であるただし、学習指導要領に明記されていない(×で示された)観点を無視してよいわけではなく、最終的に目指される力を身に付けるためには、その前段階にある力を形成的に評価し、目標とするところまで導き指導する必要がある。

図1に示された ~ に準じ、出題や解答の形式について述べる。

~ に示された、発音する・音読する力を評価するためには、面接形式のテストをする必要がある。では評価者(教員)がアルファベットの書かれたカードなどを提示し、その文字の読み方の音声化を促す形式である。 と については学習指導要領の目標等に明記されていないが、音声で慣れ親しんでいる語や語句、表現、そしてそれらが含まれる文(あるいはまとまりのある文)を、自らの音声によって音読することは、後の書く技能につなげるために肝要なステップである。個々の児童を面接形式で評価する必要はないかも知れないが、教員が形成的評価の扱いで児童の力を見取り、必要な支援・指導をすることが求められる。

以降の力を評価するためには、筆記テストが可能である。 に示された、意味を理解する力を評価することについては、面接形式のテストを行うこともできる。しかしながら信頼性の観点から問題数を増やす必要があり、時間がかからず一度に大勢を対象に実施することができる筆記テスト※2をすることが現実的である。注意すべきは、意味を理解しているかを評価することが単純に日本語訳を求めるものになってはいけないということである。語によっては(例:イラストで表しにくい形容詞や動詞)日本語を用いることも考えられるが、これまで児童が授業において理解していた「意味」がイラストを中心としていたことから、英語表現とイラストを結びつけるような形式が想定される。

「書くこと」の評価は、児童による筆記が求められるため、筆記テストを実施することになる。

～ は語や語句、表現、文(章)を書き写すことである。そして繰り返しになるが、～ にあたる「書く」ことには、「書き写す」と切り離すことができない。そのため、～ に示される語や語句、表現、そしてそれらを活用して文を書く力を評価するためには、問題提示時点で例文と語群の用意が必須である。語群については、多すぎれば児童が選択するのに非常に長い時間を要するうえに、適切な選択肢を教員が準備することも難しい。教科書巻末資料を辞書的に使用することも可能ではあるが、辞書引き指導が授業内で十分に行われていることが前提条件となる。また、テストの妥当性の面から、語群から語(句)を選択することが、「書くこと」以前に読んで理解する過程が含まれていることにも留意すべきである。すなわち、語群に含まれる語(句)は、児童が必ず読んで理解できるという条件においてのみ「書く力」を測定しているということになる。

で示されるアルファベットを書くことについては、「書き写す」のではなく「書く」ことが求められていることから、次のような問題の形式が想定される。

- (1) 教員などによって発音されたアルファベットを文字で書く
- (2) 大(小)文字で示されたアルファベットの小(大)文字を書く
- (3) 自分の名前や友達の名前の頭文字をアルファベットの大文字で書く

「読むこと」及び「書くこと」の評価は、ここまで述べてきたように整理することができる。この後の研究で、評価をする段階に至るまでの授業中の指導段階において、どのような教材を使用して指導することができるのか、その可能性について検討した。そして、成果発表として、学会や教育委員会の教員研修会等において、低学年から学年別の段階的な指導法及び、教材、カリキュラム、評価規準等について考察し、以下の様に教育現場に提案した。

<招待講演>

高橋美由紀(2021)「小学校英語—指導と評価」三重県教育委員会、小学校外国語教育において、以下の点に焦点をあてて、どのような指導と評価を行うべきか、具体的な実践例を挙げて述べた。

- (1)言語活動は、外国語を用いてお互いの思いや考えを伝え合う活動。児童が自分の伝えたいことを表現するために、指導者は言語材料を十分に用意し、表現の選択肢を多く設けることが必要。
- (2)主体的に学習に取り組む態度の評価は、学習指導要領にある目標「学びに向かう力、人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、観点別学習状況の評価や評定になじまない部分(感性、思いやり等)があり、～ については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価することを述べた。

Takahashi Miyuki (2022)「Study of Japanese Elementary and Junior High School Textbooks for Foreign Language Education-From the Perspective of Global Children's International Issues」The World Association of Lesson Studies (WALS) 2022 Malaysia Universiti Kebangsaan

なお、紙面の関係上、研究成果の発表についての詳細は割愛し、主な論文及び口頭発表の一部を掲載する。

<論文>

高橋美由紀・山内優佳・柳善和(2018)「モジュール授業を活用した小学校高学年の英語教育の実践：「読むこと」「書くこと」の指導を中心に」『愛知教育大学研究報告』第67輯-II

高橋美由紀・柳善和(2018)「CLILを活用した「読むこと」の指導—絵本教材を活用して—」『中部地区英語教育学会紀要』第47号

高橋美由紀、山内優佳、柳善和(2019)「小学校外国語「読むこと」「書くこと」に関するテストへの提案 - 6年次修了段階にできることの調査」『愛知教育大学研究報告』第68輯。

柳善和、高橋美由紀(2019)「オーストラリアの初等・中等教育における外国語教育」『中部地区英語教育学会紀要』第48号

高橋美由紀、山内優佳、柳善和(2020)「小学校英語教育における「読むこと」「書くこと」に関する評価」『愛知教育大学研究報告』第69輯。

山内優佳、高橋美由紀、柳善和(2022)「小学校外国語科における推測して「読むこと」の指導」『児童英語教育学会研究紀要第41回』

高橋美由紀、山内優佳、柳善和(2023)「小学校外国語(英語)教育における学習者用デジタル教科書を活用した「読むこと」の指導 - 推測して読む言語活動を通して - 」『愛知教育大学研究報告』第72輯。

<口頭発表・招待講演等>

高橋美由紀、山内優佳、柳善和(2021)「デジタル教科書と教科書に準拠したワークシートを活用した小学校外国語科における「主体的な学び」の指導と評価」全国英語教育学会

高橋美由紀(2022)「ロシア連邦の初等英語教育における「読むこと」の指導と評価 школа で使用している教科書分析をもとに」小学校外国語(英語)教育研究会資料

Yamauchi Yuka, Takahashi Miyuki & Yanagi Yoshikazu (2019)「On the Assessment of Reading and Writing in Elementary School English Teaching」Foreign Language Education and Technology VII

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 戸井和宏、山内優佳、	4. 巻 第41号
2. 論文標題 小学校における言語活動導入のための指導 教員養成課程大学生における調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 113-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 459
2. 論文標題 英語の教材にみられる「異文化理解」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 グローバル経営	6. 最初と最後の頁 24 - 27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山内優佳、高橋美由紀、柳善和	4. 巻 第41号
2. 論文標題 小学校外国語科における推測して「読むこと」の指導	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 研究紀要	6. 最初と最後の頁 59 - 73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、山内優佳、柳善和	4. 巻 72
2. 論文標題 小学校外国語（英語）教育における学習者用デジタル教科書を活用した「読むこと」の指導 - 推測して読む言語活動を通して -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告	6. 最初と最後の頁 64 ~ 71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 56
2. 論文標題 外国語活動・外国語（英語）科の教材・教科書にみられる多文化共生教育	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 外国語研究	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀・柳 善和	4. 巻 55
2. 論文標題 小学校外国語科における「読むこと」「書くこと」の「思考力・判断力・表現力等」の指導 - デジタル教科書教材を活用して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語研究	6. 最初と最後の頁 135-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamauchi, Y., Fukazawa, S., Kida, S., & Umeki, R.	4. 巻 25
2. 論文標題 Sequential Organization of L2 Complaint Strategies by Japanese and Thai Learners of English	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hiroshima Studies in Language and Language Education	6. 最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yuka Yamauchi	4. 巻 25巻, 1号
2. 論文標題 Spoken-English Word Recognition by Two University Students: A Case study from Listening strategies viewpoint	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Curriculum Development and Practice	6. 最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀・中村章二・犬飼和夫	4. 巻 2
2. 論文標題 GIGA スクール構想を目指した小学校教員養成カリキュラム開発 - 実践的な英語力を育成するための国内・海外教育実習教員養成プログラム -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴鹿大学教職教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 45 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 13
2. 論文標題 小学校英語で新しい学力はどのように評価されるのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ミライノマナビ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 14
2. 論文標題 CLILを活用した英語学習 (1) - 理科と国語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ミライノマナビ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 15
2. 論文標題 CLILを活用した英語学習 (2) - 算数、理科、社会、異文化理解、道徳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ミライノマナビ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 16
2. 論文標題 CLILを活用した英語学習(3)－家庭科の授業(調理)、社会等	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ミライノマナビ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 美由紀、河合 紳和、澤田 育子、柳 善和、山内 優佳	4. 巻 第70輯
2. 論文標題 外国語活動・外国語科と音楽科の教科横断的な指導「英語の歌」を活用した英語音声教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告, 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 69 - 77
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 美由紀	4. 巻 54
2. 論文標題 「主体的・対話的で深い学び=アクティブ・ラーニング」の視点からの小学校外国語活動・外国語科の授業づくり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学外国語外国文学研究会	6. 最初と最後の頁 1 - 14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 なし
2. 論文標題 小学校における外国語活動・外国語科	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 最新教育課題解説ハンドブック 組織マネジメントから危機管理まで	6. 最初と最後の頁 485 - 494
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、柳善和	4. 巻 50
2. 論文標題 小学校外国語検定教科書にみられる「主体的・対話的な深い学び」について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 227-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 美由紀、河合 紳和、澤田 育子、柳 善和	4. 巻 9
2. 論文標題 外国語教育・音楽教育における「英語の歌」の指導 - 教科間の連携と「音韻構造」に焦点をあてて -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教科開発学論集	6. 最初と最後の頁 33 - 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 69-8
2. 論文標題 マイクロソフトTeamsを使用した初等英語科教育での「マイクロティーチング」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大修館書店『英語教育』	6. 最初と最後の頁 31-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀・山内優佳・柳善和	4. 巻 第69輯
2. 論文標題 小学校英語教育における読むこと・書くことに関する評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告 教育科学編	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳 善和	4. 巻 -
2. 論文標題 次期学習指導要領とCLIL	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CLIL in Diverse Contexts : 次期学習指導要領とCLILを活用した英語の授業づくり	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀・山内優佳	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバル人材育成のための小学校外国語活動・小学校英語教育 - 教科書教材にみられるCLIL	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CLIL in Diverse Contexts : 次期学習指導要領とCLILを活用した英語の授業づくり	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、山内優佳、柳善和	4. 巻 第68輯
2. 論文標題 小学校外国語「読むこと」「書くこと」に関するテストへの提案 6年次修了段階にできることの調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 25~33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 425
2. 論文標題 シガポール日本人学校と英語教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本在外企業協会 グローバル経営	6. 最初と最後の頁 40~41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳善和・高橋美由紀	4. 巻 第48号
2. 論文標題 オーストリアの初等・中等教育における外国語教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 213～220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀・犬塚章夫・千賀秀樹・古瀬久美代・安藤翔太・柳田真弥・蕃文香・鈴木由季子	4. 巻 52
2. 論文標題 小学校外国語活動・外国語科における移行期の教材を使用した授業実践の構築	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学 外国語研究	6. 最初と最後の頁 77～96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 第2集
2. 論文標題 新学習指導要領を踏まえた小学校英語教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教科開発学を創る	6. 最初と最後の頁 82～102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 63
2. 論文標題 英語学習と人間性の涵養	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間性の涵養	6. 最初と最後の頁 100～113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀	4. 巻 2
2. 論文標題 国際理解のために必要なコンピテンシーの育成 「グローバルな子ども達の未来を創る - 進みはじめた小学校英語」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度広島ESDコンソシアム事業報告書	6. 最初と最後の頁 138 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、柳善和	4. 巻 47
2. 論文標題 CLILを活用した「読むこと」の指導－絵本教材を活用して－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、鈴木一成	4. 巻 36
2. 論文標題 ICTを活用したアクティブ・ラーニングによる授業実践の研究－小学校英語における科目的横断型学習を活用して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育大学協会研究年報	6. 最初と最後の頁 259-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、山内優佳、柳善和	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 モジュール授業を活用した小学校高学年の英語教育の実践「読むこと」「書くこと」の指導を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告. 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋美由紀、大野直子、松田孝	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 ICTを活用した小学校英語教育 スカイプを使用した事例研究を基に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告. 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計87件(うち招待講演 64件/うち国際学会 6件)

1. 発表者名 柳 善和・高橋 美由紀
2. 発表標題 小学校英語教育における即興的で主体的な対話の指導について
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋美由紀・山内優佳・柳善和
2. 発表標題 デジタル教科書と教科書に準拠したワークシートを活用した小学校外国語科における「主体的な学び」の指導と評価
3. 学会等名 全国英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山内 優佳・高橋 美由紀・柳 善和
2. 発表標題 小学校外国語科における推測して「読むこと」の指導
3. 学会等名 第21回 小学校英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 小学校外国語教育におけるタブレットを活用した主体的な学び
3. 学会等名 外国語教育メディア学会中部支部 秋季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 外国語活動・外国語教育の指導学習指導要領を踏まえた授業と評価のあり方
3. 学会等名 三重県鈴鹿市教育委員会小学校英語教育研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 主体的・対話的で深い学びをささえる授業づくりと評価
3. 学会等名 三重県名張市教育センター小学校英語教育研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領に対応した中学校外国語（英語）科の指導と評価
3. 学会等名 三重県鈴鹿市教育委員会中学校英語教育研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 外国語教育における小中連携について
3. 学会等名 愛知県教育センター研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 小学校から中学校へつなぐ外国語教育における「即興力」の育成
3. 学会等名 愛知県新城市英語教育研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 『小学校英語 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりと評価 - 『ONE WORLD Smiles』 『Let's Try!』を使用して』
3. 学会等名 三重県三重郡教育研究所 令和3年度「夏期研修講座（小学校英語）」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 小学校英語 - 指導と評価に係る研修1：学習指導要領を踏まえた授業と評価のあり方
3. 学会等名 三重県教育委員会教員研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 新カリキュラムに基づいた評価の在り方
3. 学会等名 あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業 英語指導力向上講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 美由紀
2. 発表標題 小学校外国語活動・外国語科の指導と評価について－主体的・対話的で深い学びの授業づくり
3. 学会等名 三重県伊賀市教育センター研修講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi Miyuki
2. 発表標題 Study of International Teacher Training Development -from the perspective of Lesson Study & Curriculum Management-
3. 学会等名 WALS conference Symposia（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美由紀、柳 善和、山内優佳
2. 発表標題 英語の歌を活用した「読むこと」と英語の音韻的構造の指導 音楽教育と英語教育の融合
3. 学会等名 第20回 小学校英語教育学会 中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 主体的・対話的で深い学びを支える授業づくりと評価 - 『NEW HPORIZON Elementary English Course』及び『Let's Try!』を使用して
3. 学会等名 三重県名張市教育センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 Let's Enjoy English 英語を楽しく使ってみよう！ - 『Here We Go!』光村図書出版を活用して
3. 学会等名 鈴鹿大学 講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 文部科学省補助教材『Let`s Try!』と検定済み教科書『NEW HORIZON Elementary English Course』の指導と評価の実際
3. 学会等名 三重県伊賀市教育センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 外国語教育における小中連携について
3. 学会等名 愛知県教育センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 これからの英語教育 - 小学校から大学入試まで
3. 学会等名 愛知県尾北地区英語教員授業研修 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamauchi, Y., Takahashi, M., & Yanagi, Y.
2. 発表標題 On the assessment of reading and writing in elementary school English teaching
3. 学会等名 the meeting of FLEAT 7 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀・柳善和
2. 発表標題 英語教育における小学校と中学校の接続：中学校英語教育の到達目標からの考察
3. 学会等名 中部地区英語教育学会 石川大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 「資質・能力」の三つの柱を一体的に育成する小学校外国語教育・外国語活動
3. 学会等名 第69回全国英語教育研究団体連合会 小学校の部 第2分科会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新カリキュラムに基づいた評価の在り方
3. 学会等名 令和元年度「あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領を踏まえた外国語教育と外国語活動
3. 学会等名 令和元年度第1回英語教育授業研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校外国語教育と評価(パフォーマンス評価)
3. 学会等名 愛知教育大学同窓会研修会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 外国語活動・外国語科と評価
3. 学会等名 西春日井地区小学校外国語活動部(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 2020年度からの英語教育- 一西小の取り組みからみえる成果と課題
3. 学会等名 豊川市立一宮西部小学校研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校英語で、「読むこと」「書くこと」を主体的・対話的に行うために
3. 学会等名 小野市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 なぜ小学校英語が必要なのか
3. 学会等名 片原小学校学習指導研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 テキスト教材（文部科学省配布の教材や教科書）等を活用した内容と評価
3. 学会等名 三重県内の複数の研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領を踏まえた外国語教育の指導－ 4 技能 5 領域の目標と評価
3. 学会等名 鳥取県教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美由紀・山内優佳・柳善和
2. 発表標題 児童の主体的な学びを促す文字指導とその評価 文部科学省配布教材及び児童用の英語辞書を活用した調査から
3. 学会等名 第39回JASTCE 全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校外国語（英語）教育における授業づくり - デジタル教材を活用して
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 第58回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 ロシアの小学校英語教育 低学年からの教育と文字指導
3. 学会等名 第44回全国英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山内優佳・高橋美由紀・柳善和
2. 発表標題 小学校外国語「読むこと」「書くこと」に関するテストの提案
3. 学会等名 第44回全国英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 国際理解のために必要なコンピテンシーの育成 「グローバルな子ども達の未来を創る - 進みはじめた小学校英語」
3. 学会等名 2018年度広島ESDコンソシアム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 外国語教育へ繋げる外国語活動の文字指導： Developing phonological awarenessに焦点をあてて
3. 学会等名 外国語教育メディア学会（LET） 第91回 中部支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 世界を感じながら英語を学ぶ子ども達でいっぱい！
3. 学会等名 公文教育研究会 那覇事務局研究会 （招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 「小学校における外国語活動・外国語教育の基本理念と言語習得理論-児童の発達段階に応じた効果的な指導」
3. 学会等名 愛知県教育センター（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 これからの小学校英語教育
3. 学会等名 愛知県安城市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領を踏まえた小学校英語
3. 学会等名 三重県英語研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳善和・高橋美由紀
2. 発表標題 オーストラリアの初等・中等教育にける外国語教育
3. 学会等名 中部地区英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領に向けて今やるべきこととは - 外国語教育における小・中のなめらかな接続を目指して
3. 学会等名 滋賀県近江市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 次期学習指導要領に対応した小学校英語の指導 - 主体的・協働的・深い学びに繋げるために
3. 学会等名 愛知県春日井市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 心豊かなコミュニケーションを目指して
3. 学会等名 愛知県西尾市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校から中学校につなぐ英語教育
3. 学会等名 愛知県教育センター（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 次期学習指導要領に対応した小学校英語の指導 - 活動から教育へ
3. 学会等名 愛知県豊田市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 主体的・協働的・深い学びにおける小学校英語
3. 学会等名 愛知教育大学 公開講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領のポイントと指導法 - 円滑な小中連携のために今しておくべきことは？
3. 学会等名 兵庫県小野市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領を踏まえた小学校英語指導法
3. 学会等名 三重県松阪市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 英語科教育法 - 新学習指導要領における小中英語教育の理論と実践
3. 学会等名 二種免許更新講習（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校外国語活動・外国語教育 - 主体的・協働的な英語の授業づくり
3. 学会等名 愛知県豊川市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 人間性を育むための外国語活動・教育のあり方
3. 学会等名 愛知県豊田市立東保見小学校研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 これからの小学校英語の方向性とその指導
3. 学会等名 聖ウルスラ学院英智小・中学校研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 韓国の事例から日本の英語教育を考える
3. 学会等名 KOTRA (大韓貿易投資振興公社) 東京貿易館研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 日本の言語文化と英語教育
3. 学会等名 ロシア ニジニノブゴルド言語大学 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校英語教育の理論と実践 - 主体的協働的な授業とは？
3. 学会等名 愛知県あま市教育委員会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳善和、高橋美由紀
2. 発表標題 小学校3年生の英語能力及び英語学習の実態に関する研究
3. 学会等名 中部地区英語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀、柳善和
2. 発表標題 CLILを活用した「読むこと」の指導－絵本教材を活用して
3. 学会等名 中部地区英語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校英語教育にアクティブ・ラーニングを取り入れる活動－ICTを効果的に活用して
3. 学会等名 外国語教育メディア学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀、山内優佳、柳善和
2. 発表標題 モジュール授業を活用した小学校高学年の英語教育の実践「読むこと」「書くこと」の指導を中心に
3. 学会等名 第17回 小学校英語教育学会兵庫大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校における外国語活動の基本理念と言語習得理論
3. 学会等名 愛知県総合教育センター 小学校外国語活動講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 「読むこと」や「書くこと」につなげる指導及び評価－他者と関わりながら、主体的に学ぶ力を育てるために
3. 学会等名 滋賀県「小中高系統的英語教育推進事業」授業研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 次期学習指導要領を見据えた英語教育のこれから
3. 学会等名 岡崎市 第12回教科・領域指導員会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 教科化に向けて、今、知っておきたいこと
3. 学会等名 みよし市黒笹小学校 現職教員研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 新学習指導要領における英語科と外国語活動
3. 学会等名 西春日井地区教育振興会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校における外国語教育・英語～授業づくりのポイント～
3. 学会等名 桑名市教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 これからの時代に求められる小学校英語科教育と協働的学び
3. 学会等名 広島ESDコンソーシアム研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 どうなる？どうする？小学校英語
3. 学会等名 小中一貫外国語活動指導者スキルアップ講座 兵庫県小野市（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 これからの英語教育 小学校から大学入試まで
3. 学会等名 東京都文京区立誠之小学校 研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyuki Takahashi
2. 発表標題 The traditional symbols of Japan (colors, numbers, flowers, animals), superstitions and traditional customs.
3. 学会等名 Kazan Federal University, Institute of International Relations, History and Oriental Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahashi Miyuki
2. 発表標題 Study of Japanese Elementary and Junior High School Textbooks for Foreign Language Education-From the Perspective of Global Children's International Issues
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (WALS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小学校英語 指導と評価
3. 学会等名 三重県教育委員会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi Miyuki
2. 発表標題 Globalization and English Education of Japan
3. 学会等名 2022 International Action Research Seminar Saratok District Education Office (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 ICT機器を活用した「英語科教育法」の授業とその効果
3. 学会等名 第51回中部地区英語教育学会 福井大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀、柳善和、山内優佳
2. 発表標題 小学校英語指導のために教職課程学生が大学に期待する学び 英語専攻と非専攻学生対象の意識調査
3. 学会等名 第22回 小学校英語教育学会 四国・徳島大会 四国大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 ESDをテーマとした外国語科の授業の教育的効果 「学びに向かう人間性」の視点から
3. 学会等名 第47回全国英語教育学会 北海道研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kuramoto Teatsuo & Takahashi Miyuki
2. 発表標題 The Perspective of Curriculum Management with Lesson Study in Japan Schools
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (WALS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 「ICTを効果的に活用した小学校英語授業づくり」
3. 学会等名 鈴鹿市教育委員会 令和4年度研修講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 外国語活動・外国語教育の指導 新たな研究の方向性
3. 学会等名 岡崎市本宿小学校研修会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 ALTとTTで指導するために - デジタル教科書を使用したコミュニケーション能力育成の授業づくり
3. 学会等名 紀宝町教育委員会 中学校英語地域別研修（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 「英語デジタル教科書の導入と活用」主体的な学びを育む、小学校英語デジタル教科書の活用 - 三重県研究事業より
3. 学会等名 第99回LET中部支部秋季研究大会 シンポジウムパネリスト（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 小中高連携した系統的な英語教育の在り方について ～学びをつないだコミュニケーション能力の育成～
3. 学会等名 滋賀県中学校教育研究会 英語部会研修部（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋美由紀
2. 発表標題 デジタル教科書を活用した指導と評価 - 子どもたちが主体的に伝え合うことができる力の育成を目指して -
3. 学会等名 三重県英語教育改善プラン推進事業（三重県教育委員会）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山内優佳
2. 発表標題 ひとりひとりに寄り添った指導とは 外国語教育研究から個を捉える
3. 学会等名 県立広島大学, ことばとことばの教育セミナー・ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山内優佳
2. 発表標題 相手意識について「やり取り」「発表」「読み書き」の場面で考える
3. 学会等名 令和4年度 大塚小学校公開研究会（英語教育特別研究指定校）（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 石塚等（編著）、西岡加名恵、高橋美由紀他58名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 1962
3. 書名 最新教育課題解説ハンドブック 組織マネジメントから危機管理まで	

1. 著者名 Ryan, A.& Takahashi, M. (Eds)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鳴海出版	5. 総ページ数 237
3. 書名 CLIL in diverse contexts. : 次期学習指導要領とCLILを活用した英語の授業づくり	

1. 著者名 石川恭・倉本哲男・野地恒有・稲葉みどり・高橋美由紀・古田真司・筒井清次郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 愛知教育大学出版会	5. 総ページ数 134
3. 書名 教科開発学を創る 第2集 愛知教育大学大学院共同教科開発学専攻篇	

1. 著者名 梶田勲一・鎌田首治朗・金澤孝夫・湯峯裕・金山憲正・菅井啓之・西村紗貴・岡本祐佳・中村哲・飯田真人・山口聖代・高橋美由紀・中村浩也・安部秀高	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子出版	5. 総ページ数 198
3. 書名 人間性の涵養 新学習指導要領の究極的な目標は	

1. 著者名 愛知教育大学大学院共同教科開発学専攻篇	4. 発行年 2018年
2. 出版社 愛知教育大学出版会	5. 総ページ数 134
3. 書名 教科開発学を創る 第2集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柳 善和 (Yanagi Yoshikazu) (40220181)	名古屋学院大学・外国語学部・教授 (33912)	
研究分担者	山内 優佳 (Ymauchi Yuka) (40781365)	広島大学・外国語教育研究センター・准教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------